

学生の声に対する感想や意見をお寄せください。紙面に掲載する場合があります。〒960-8602 福島民報社地域交流部。アクセスは024(5331)4117、メールはchiki@fukushima-minpo.co.jp(住所電話番号を明記してください)

**高橋先生** 少子高齢化が進む中、保育士や介護職が不足しているけれど、どのような対策が必要だろうか。

**橋内** 限られた人材や施設、設備などを有効活用する方法を考えなければならぬと思う。

**菅野美** 保育と他の福祉サービスを組み合わせて支援できるシステムがあればよいのではないかな。

**高橋先生** 厚生労働省は「地域共生社会の実現」という理念を掲げ、高齢者、障害者、子どもたちを包括的に支援するシステムの構築を進めている。高齢者や障害者のデイサービスと保育所の分園や一時預かりなどを一体的に実施する事業に対し、整備費と運営費を補助している。このように介護サービスと保育サービスを一元的に行う施設を幼老複合施設という。どう思うか。

**菅野心** 高齢者と子どもと一緒に生活することで家庭的な空間ができるのではないかな。

**菅野美** 核家族化が進む中、高齢者と触れ合う機会があれば子どもの視野が広がると思う。

**橋内** 障害者と幼い時から過ごすことで偏見がなくなる。

**高橋望** 子どもが温かい気持ちになり、思いやりの心が育まれる。

**砂塚** 高齢者との関わりを通じて、子どもたちが伝統や文化を継承できるのではないかな。

**高橋先生** 肯定的な意見が多いようだけど、幼老複合施設について考えられるデメリットはあるかな。

**菅野心** 保育士と介護職の両方とも

人材が不足しているため、職員の確保が難しい。

**高橋望** 子どもが苦手な高齢者や人見知りをする子への対応が心配だ。

**砂塚** 子ども、障害者、高齢者への対応は専門性が異なり、一つの施設で支援する職員の負担は大きい。

**高橋先生** すでに開設されている幼老複合施設では、全員が常に一緒に過

ごすのではなく、朝の体操やレクリエーションなどで交流する時間帯を設けたり、誕生会や年間行事で無理なく触れ合ったりと工夫しているようだ。

**菅野美** 幼老複合施設では職員の連携が大切だね。

**高橋望** これから幼老複合施設がもっと増えるのではないかな。

**高橋先生** 少子化対策を進めることが第一だけど、このまま少子高齢化が進んでいくと仮定すると、幼老複合施設という形態の施設は地域共生社会を構築するために有効な方法の一つだ。施設を効果的に機能させるためには、人材の育成が最も大切だろう。

**橋内** 幼老複合施設に限らず、一般的な保育所においても、高齢者や障害者をはじめ地域の人々との交流という視点を持たなければならない。

**菅野心** 授業で学んだ「保育所保育指針」の中でも、高齢者や地域の人々との触れ合いを通して家族を大切にする気持ちを育むことが述べられていた。

**砂塚** 保育士を目指す私たちは、子どもの保育だけではなく地域全体の支援についても学ぶ必要がある。

＝次回は7月第3週に掲載予定

幼老複合施設

「共生」へ人材育成を



短期大学部保育学科  
写真前列右から菅野心さん、菅野美沙紀さん、高橋雄一講師。後列右から高橋望さん、橋内沙友里さん、砂塚沙耶さん(学生はいずれも2年生)